

日進月歩するデジタル製品を、「使い勝手」ではなく、「実装された新技術」と「製品の革新性」をテーマにレビューしていくコーナー。

塩田紳二

## インターナビVXH-061MCVi (本田技研工業)

### 通信機能を備えたカーナビが普及中 今後必要なのはカーブロードバンドか？

#### 車自体をセンサーにしてしまう ネットワーク対応カーナビ

カーナビの進化は着実に進んでおり、単に内蔵した地図データにもとづいた道案内だけではなくなっている。最近の機種は、VICSという道路の混雑状況を伝えるサービスをFM放送から受信することで、より効率の良い経路設定を選ぶ機能を標準搭載しているものも多い。

今回は、通信機能を持ったカーナビの中でも、特徴のある機能を搭載したホンダの純正カーナビを取り上げよう。この製品には「インターナビ・プレミアムクラブ」というサービスが用意されている。このサービスに対応したカーナビを搭載し、かつインターナビ・プレミアムクラブに加入したホンダ車のみ利用できる、高度な交通情報提供サービスだ。

先述したように、最近のカーナビは道路交通情報通信システムセンターが提供するVICSというサービスを利用して、道路状況をリアルタイムで取得している。しかし、この情報はあくまでも「そのときの状況」であって、それだけはその混雑の性質を知ることではできない。ある曜日だけや、特定の時間帯だけ混みやすい道路と

いうのはよくある。だから、カーナビがVICSのデータを元に経路を設定しても、実際にその付近を通る頃に、ちょうど渋滞に巻き込まれることがある。そこでホンダは過去のVICSデータや独自に収集したデータを元に、日付や時間、天気や季節、工事の情報を加味したインテリジェントな交通情報予測システムを開発して、インターナビ・プレミアムクラブとして提供している。このサービスはVICSのセンサーが設置されていない道路の状況を知るために、車自体をセンサーとして利用する「フローティングカーシステム」によって実現している。あらかじめ設定された道路をインターナビ搭載車が通過すると自動的に経過時間を測定して、電話回線を經由してセンターに送信する仕組みだ。つまり、実際に走っている車をセンサーとして利用する、一種のセンサーネットワークを形成しているのだ。

#### 先進的なサービスを実現するために求められる カーブロードバンド

ただ、このサービスでは、ユーザーの携帯電話を利用してセンターにダイヤル

アップするため、通信料金が固定制にならないことだ。デフォルトでは、10分おきに通信を行う仕様で、時間間隔を設定できるものの、長すぎると情報鮮度と精度が落ちてしまう。なんらかの形で、定額制のサポートは今後の課題だろう。

また、ケータイもケーブルを接続しなければならないので、面倒さがつきまとう。しかし、インターナビの最新モデルではBluetoothに対応しており、同じくBluetoothに対応したケータイならば自分のポケットに入れたままでも自動的にペアリンクして通信できるようになっている。

今後、カーナビの開発競争は激しく、より詳細なナビゲーションを行うためにデータ通信の需要は増加しつづけ、ブロードバンド化が望まれるようになるだろう。PHSを使った定額サービスや安価で高速な公衆無線LANなどが整いつつあるのに、今のところ車では携帯電話ぐらいしか通信手段がないのだ。

また、閉鎖されたプライベート空間である車内は、音楽などのコンテンツの需要も高い。いちいちMDを持ち歩いたり、自宅のPCからデータをコピーしたりしなくても、音楽配信サービスからダウンロードできれば手っ取り早い。日本でもiTunes Music Storeがスタートし、音楽配信サービスが本格的に立ち上がりつつある今、ドライバーこそ潜在的なユーザーとしては最も多いのではないだろうか。

自動車本来の「移動する」ことと、閉鎖空間ゆえの「コンテンツを楽しむ」という2つの目的を効率的に達成するために、自動車にもブロードバンド環境が求められるようになってきている。

## [ Reviewer's View ]

カーナビの通信機能が充実し始めた。これを使うと、移動中のドライバーに対してのさまざまなサービスの提供が可能になる。ホンダの新しいステップワゴンに搭載されたカーナビは、より細かい交通情報やニュース、天気情報などの配信を行う。現在の車は、携帯電話に頼らざるを得ないが、WiMAX や iBurst といった高速移動中でも利用可能な通信方式が使えるようになれば、新たなサービスや車独自のサービスが実現できるようになる。ブロードバンドが未開拓な市場がここにもある。



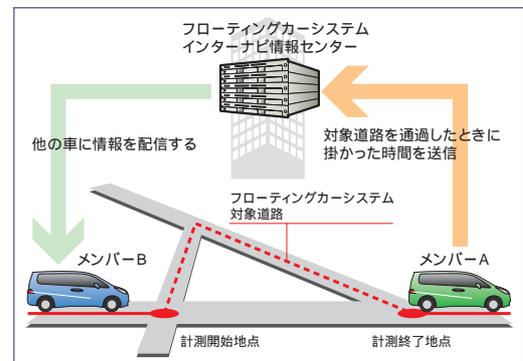
**ホ**ンダがステップワゴンに搭載した「インターナビ」システムは、通信を使ってより細かい交通情報や天気、ニュース配信などを行うもの。特に交通情報は、標準で使われる VICS 情報に加え、ホンダ独自の予測などを加味したものであり、最も早く目的地に到達できるルートを案内する。また、混雑予測から出発時間を案内する機能もある。オプションで Bluetooth 機能を搭載したモデルもあり、これで携帯電話と接続が可能。ケーブルが不要なので、端末をポケットなどに入れたままでもいい。

VXH-061MCVi は、ハードディスク内蔵のため地図データなどの読み込みは非常に高速。操作のほとんどはタッチパネルから行えるので、インターフェイスはとてもシンプル。



DVD ビデオ、音楽 CD、MD などのオーディオ機能を搭載している。メモリスティックや CD-R からの MP3/WMA 再生機能も備えている。

フローティングカーシステムの概念図。実際に走っている車から、道路情報を収集する。



ケータイの接続はグローブボックス内から延びるケーブルで行う。

独自の道路情報システム「フローティングカーシステム」の対象道路は、ウェブ上で公開されている。



<http://premium-club.jp/PR/technology/tech1.html>

# PSP バージョン 2.00

(ソニー・コンピュータエンタテインメント)

## 携帯ゲーム機でウェブアクセス 自由にコンテンツをダウンロード

### バージョンアップでPSPに ウェブブラウザを搭載

Play Station Portable(以下PSP)は、2004年12月の登場以来、着実にユーザー数を増やしているが、7月のファームウェアアップデートでついにウェブブラウザが搭載された。

もともと、PSPには802.11b無線LANが搭載されているため、無線LAN経由で接続が可能なエリアであれば、どこでもウェブブラウジングが可能となる。もっとも、PSPはゲーム機であり、パソコンやPDAのようにゲームプレイ中にウェブブラウザを起動することはできないが、外出先でのちょっとしたウェブサーフィンであれば、これでも十分だ。

組み込まれているウェブブラウザはACCESSのNetFrontを採用している。SSLやJavaScriptに対応しているため、Gmailなどのサービスも利用可能だ。ただし、画像が多いページなどではメモリ不足で完全な表示ができない場合も

ある。メインメモリーが32Mバイトしかないのでもったいないことではあるが。

### ゲーム端末がインターネットに アクセスできることの意味

携帯型のゲーム端末が、オープンなインターネットに接続することには、大きな意味がある。PSPのウェブブラウザは、ネット上の動画や音楽ファイルをダウンロードして、メモリースティックに保存できる。つまり、ネット上からコンテンツが自由に取得できるのだ。

また、最近ではMacromediaのFlashで作成された無料のゲームも、数多く公開されている。残念ながらPSPのブラウザはFlashには対応していないため、それらのゲームをプレイできないが、PDA向けのNetFrontはFlashに対応しているものもあるので技術的には可能と思われる。

このことは、これまでのハードウェア(ゲーム機本体)ではなくソフトウェア(ゲー

## [ Reviewer's View ]

PSPのファームウェアがアップデートされ、ウェブブラウザが搭載された。内蔵の無線LANを使えば、自宅やホットスポットからインターネットへのアクセスが可能になった。

これだけの高機能な映像デバイスなのだから、もっと自由にコンテンツを楽しみたいのがユーザーの正直な気持ちだろう。ウェブブラウザはそれに向けた最初の一步だ。

あとは保存するストレージだ。メモリースティックデュオは1GBが最大容量で、動画や音楽ファイルを楽しむにはまだまだ少ない。

ムソフト)で利益を上げる、ゲーム業界のビジネスモデルを壊す危険なこともかもしれない。しかし、たとえばアップルがiPodとiTunes Music Storeでゲームとはまったく逆の、ソフト(音楽)を安くして、ハードウェア(iPodシリーズ)で利益を上げることが可能ということを証明している。音楽とゲームとを単純に同一視はできないが、ここに新しいビジネスモデルの可能性を見ることができる。



システムソフトウェアのアップデートと同時に、PSPの新品「セラミック・ホワイト」の9月15日発売が告知された。ユーザー層を広く女性にも広げたいとの狙いから、この色が選ばれたようだ。

PSPのウェブブラウザはACCESS社のNetFrontを採用し、SSLやJavaScriptにも対応しており、多くのサイトにアクセスできる。操作性もよく考えられており、人差し指で操作するR、Lボタンが「戻る」と「進む」、ボタンを押しながらアナログスティックでスクロール、ボタンでリンクを開くといった感じで、PSPユーザーならすぐに慣れるだろう。



# Lipii iアプリ版

(クイックサン)

## ケータイからPCを自由に操作 リビングルームPCのキラアプリか？

### ケータイとパソコンの 新しい関係？

クイックサンが発表した携帯電話をパソコンのキーボードとマウスにする赤外線アダプターは、同社のリモコン Lipii の携帯電話版である。この赤外線アダプター、携帯電話とPCを結び付けることで、さまざまなサービスを可能にする。

この赤外線アダプターは、USBでPCと接続すると、PC側からはWindowsの標準ドライバーでキーボード/マウスとして認識される。したがってWindows標準のドライバーで利用可能だ。操作は、赤外線通信機能を持ったドコモ製のケータイに、iアプリをインストールして行う。iアプリを立ち上げると、ケータイの画面にボタンを模した配置図が表れ、それを見ながら操作を行なえる。

マウスの操作は、ケータイの十字キーで上下左右に動かせる。キー入力も、アプリのモードを切り替えて、1のキーに「あ」行、2のキーに「か」行が割り当てられている。ケータイの文字入力と同じ方式がとられている。パソコンが普及したとはいえ、いまだにキーボードに苦手意識を持っている人はいるし、パソコンよりも圧倒的に普及しているケータイと同じ方式を選ぶことは、大きな意味がある。

家庭のリビングにもパソコンを置かせて、情報家電の中心にしようという試みがあるが、そのための1つの障害がキーボードだという。たくさんのキーがあるPCのキーボードに対する苦手意識もさることながら、美観的な点からもリビングには置きたくないという消費者もいる。そういった障害を取り除くために、ケータイでPCを操作させようというアイデアは非常に興味深い。クイックサンによると、モニターとして女子高生にテストをしてもらったら、予想以上に素早く使いこなしたので開発者も驚いたそうだ。

また、クイックサンではLipiiを単にキーボードの替わりとしてではなく、ケータイとPCとウェブを結び付ける新たなツールとして活用することを考えている。ケータイ側で取得したURLを、Lipiiを経由してPCに転送し、ブラウザでウェブアクセスするといったことが簡単にできるから

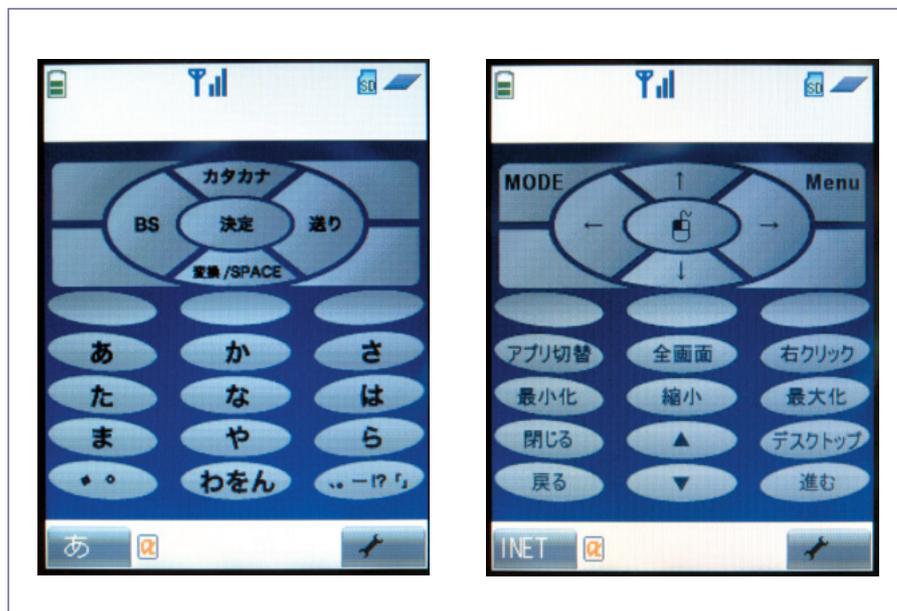
### [ Reviewer's View ]

当初は、ケータイのキー配列を効率の悪さから批判する技術者もいたが、万人に対するわかりやすさからデファクトスタンダードとなった。ならば、それをパソコンに取り入れようという動きは当然だろう。技術的観点からは非合理的であっても、消費者の観点からは大きな問題ではないのだ。ある技術が市場に受け入れられるかどうかを決めるのは、最終的には消費者自身なのだから。

だ。受光ユニットの価格も下げられるため、キャンペーンで無料配布するといったことも可能だという。

ケータイは、おそらく日本人にとってもっとも身近なマンマシンインターフェイスだ。ならば、それを利用してパソコンを操作するというのは、素直な発想だろう。ケータイとPCの新たな関係が、ここから始まるのかもしれない。

Lipii は、USB接続の受光ユニットとケータイ用のアプリがセットの製品だが、アプリはダウンロードできるため、実際には店頭で受光ユニットのみを購入することになる。Lipiiは専用のリモコンタイプはすでに発売されているが、今回取り上げたiアプリ版の発売は9月の予定。写真の受光ユニットも試作品で、製品版のデザインは異なる予定。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)